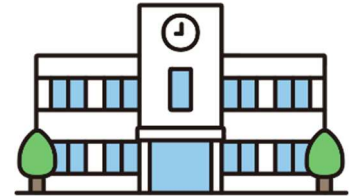


白浜地区小学校に関する説明会 説明概要と質疑応答

令和6年7月30日及び8月1日に行いました「白浜地区小学校に関する説明会」の概要と、その際の質疑応答の内容をお知らせいたします。



◇ 教育委員会からの説明概要 ◇

白浜地区の児童数（令和6年5月1日現在）

	1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		小1		小2		小3		小4		小5		小6	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人	6	2	2	2	3	2	2	7	4	6	4	5	10	8	7	4	8	5	6	8	3	12	10	7
計	8		4		5		9		10		9		18		11		13		14		15		17	



表のとおり、白浜地区の児童数は少なく、小学校としては「小規模校」と呼ばれる規模での運営となっています。このまま推移していくと令和11年度には複式学級が発生する可能性があります。

そのため教育委員会としては、今後の白浜地区の小学校の在り方、方向性を検討する時期にあると考え、「白浜地区学校再編検討委員会」を立ち上げ、白浜地区の皆さんに今後の小学校について検討をしていただきたいと考えております。

地区学校再編検討委員会は、行政区（区長）代表、保護者代表、学校代表（校長）、学識経験者で組織し、教育委員会は事務局となります。

検討委員会ではまず、「学校を再編（統合）する・しない」について検討をするところから始めます。検討の結果、統合する方向でまとまった場合には、統合する相手の地区（現在は千倉地区を想定しています）と合同で会議を開き、学校の位置や開校時期、校名、その他必要な事項を決めていきます。統合しない方向でまとまった場合は、検討委員会を終了し、教育委員会としても引き続き、学校運営のサポートをしていきます。

検討の際は、説明会などを開き、地域や保護者の意見を伺いながら進めていきます。

今回開催した説明会は、統合の是非を問うものではなく、現状について御理解いただくための会でした。

主な質疑



●学校の統合・規模について

Q『もし千倉に行くとしたら、バス通学の時間が長くなるのが心配。』

A『時間は30分、距離は15km程度の範囲を目安に統合しています。通学支援は保護者を含む専門部会が決めており、これまでの統合校では大きな問題は出て来ていません。』

Q『もし千倉に行くとしたら、災害時のお迎えが遠くなるのは不安。』

A『災害時は、安全が確認できるまで学校・園で子どもをお預かりします。信頼して預けて欲しい。』

Q『少人数の小学校も良いと思う。地域を巻き込んで一緒に活動していける学校を目指した方が良い。』

A『統合する・しないについては、再編検討委員会において検討した結論を尊重します。』

●複式学級について

Q『複式学級のメリット・デメリットは？』

A『2学年が一つの教室に入り、1人の先生に交代で教わります。一つの学年を教えている間、もう一つの学年は課題をやります。その他の学校運営でも余裕がなく、先生の負担も大きいです。小規模校の範疇を超えており、メリットは考えにくいと思います。』

●学校再編検討委員会・議論の進め方

Q『検討委員会の前に、地域説明会などで地域の意見を出してもらった方が良いのでは？』

A『検討委員会が主催で説明会をして、その際の意見・結果を踏まえて結論を出していく考えです。』

Q『再編のデッドラインはあるのか？』

A『デッドラインは設けていない。ただ、複式学級になる年度までに、議論をお願いする責任があると考えています。』

Q『人により説明の受け取り方が違うため、会議の内容を都度周知してもらいたい。』

A『教育委員会として、話し合いの内容を都度伝えていく努力をしていきます。』

●学校再編検討委員会の立ち上げについて

Q『委員会が立ち上がると統合に向けて話が進んでしまうと感じる。もう少し緩やかにお願いしたい。』

A『急ぐつもりはない。ただ、委員会を立ち上げて議論することは必要と思うので御理解を頂きたい。』

Q『地域・保護者の意見を尊重したいと思う。検討委員会の立ち上げに同意したわけではない。』

(意見の表明のみ、回答なし)

Q『子どもにとって一番良い教育環境を作るのも大人の役目。検討委員会で検討してもらいたい。』

A『子ども達の教育環境として一番良いものを、再編検討委員会で決めていきたいと思っています。』

◇ 質疑・応答 ≪7月30日（保護者対象）参加者：27名≫ ◇

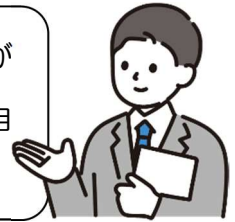
●学校の統合・規模について



学校再編の内容はどういうものですか？

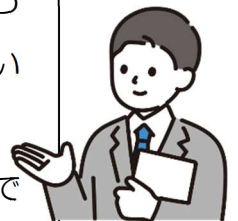
再編の考え方や選択肢、可能性などの説明をしてもらわないと内容が分からないので、議論が進まない。

もし統合するとすれば、千倉地区が一番自然な流れかなと考えています。中学校が既に白浜地区と千倉地区で統合していますし、距離的なものを考えても、それが自然かなと考えています。



文科省の手引では、小規模校でも一律に統合するとはなっていません。小規模学校のメリットを生かした学校づくりをするための取り組みに対し、行政として特別な支援をしていくということになっています。議論の大前提となる情報なので、こうした選択肢についても是非、検討委員会で検討を始める前に情報提供及び説明をしてもらいたいと思います。

可能な限りは再編をして、一定規模、複式学級にならないような学校にしていきたいと思いますというのが、文科省の考えです。離島や、物理的に統合ができず、小規模・極めて小さい規模でやっていくしかない学校については、オンラインなどを活用していこうというのが、文科省の手引に書いてある内容です。スクールバスを使えば十分統合は可能な範囲でやっておりますので、小規模校を残すべきだということで、オンライン等を活用してやっていくような学校は、私どもとしては現在のところ求めているところではありません。また、文科省の方もそういうものについては求めている、そういう理解をしています。



文科省の手引には、規模が小さくなれば男女比や教育効果の問題もあるので、一旦は再編・統合について議論をすべきではないかというのは書かれています。しかし、行政が一方的に再編を進めるのは良くない、地域・保護者の意見を聞きながら進めていくべきということが書いてあります。いろんな事情があってできないことはあるので、こうした場合については、コミュニティスクール化とか、地域共同推進ホームを建てるなどの選択肢もあるということについて、公平かつ公正に情報提供していただかないと、ミスリードになってしまうと思います。



千倉の話がありましたが、もし千倉小学校だとしたら、滝口からの距離だと三芳小学校と変わらないし、北条小学校の方が近い。そういう情報を開示して、共有化していただいて、それを議論する。我々は議論しないなんて一言も言ってなくて、寧ろ議論をすべきだと申し上げて、こういったことについて検証してください、説明してくださいということを依頼しているということです。

再編検討委員会で、今申し上げたような資料などを出して、議論していただく。その都度その都度、保護者の方々、地区の方々に説明申し上げて御意見いただいて、議論を進めていく。そういうことを私どもはやっていきたいということです。



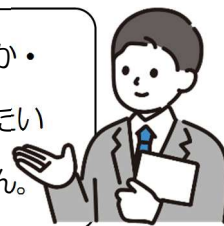
千倉がこっちに来るというお考えはないんですか。
あと、学校が終わってからの学童の問題や、通学の時間、バスの苦手な子もいると思います。災害時のお迎えなどは、例えば千倉に行った場合だと、そこまで行く手段が取れない場合もあると思いますし、そういった面で怖いというのがあります。

統合の中身に入ってしまう気がしたのですが、災害時の対応はお答えします。
警報等が出た場合については、学校や園で預かるというのが基本的な方針です。お迎えに来る場合は3つの原則というのがあります。①自宅が安全であること。②学校と家庭への経路が安全であること。③子どもを家に引き取った後、必ず大人がいて子どもだけにしない状況にある。この3つが確認された場合についてお迎えをお願いしています。これが欠けるようでしたら、学校の方で預かります。これは何処へ行っても同じですので、この点については私どもや学校を信頼していただければと思います。



運動会ですが、私は4人でも5人でも良いと思うんです。大人数でやるよりも少人数でできることってたくさんあると思うんです。少人数がいけないとお考えになるなら、地域の方も巻き込んで皆でやるような運動会にしたらどうかと思います。
地域に子どもがいなくなるというのが、白浜にとって凄く死活問題だと思うんです。放課後も朝も子ども達が歩いてない。挨拶もできない。どんどん高齢化が進むと思います。そういった面でやっぱり、地域の方と一緒に活動していける学校というのを目指した方が私は良いと思います。

運動会や学校行事も、小さいものも良いということですが、再編の中身、統合するか・しないかの中身になってきますので、これはまた機会がある段階で御意見いただきたいと思います。私どもの考えも、お話ししたいと思います。中途半端で申し訳ありません。



●複式学級について



小規模の学校も良いなと思うところもあるのですが、複式学級になるデメリットと、メリットはないのか。複式学級は少ない人数だから、目が届きやすいということもメリットとしてあると思うが、逆にデメリットの方が大きいのかお伺いしたい。

目が届くということは、子ども達にしてみれば常に先生の視界に入り、息苦しいという面もある、ということも思います。

複式学級というのは、例えば2・3年生が1つの教室で、1人の先生に教わる。国語なら国語を2年生に教えて3年生には課題を与えて、3年生を教えるときは2年生の方が課題を、という進め方です。教員の配置数は学級数+1名配置されるため、その1名の教員に学級担任として動いてもらい、複式解消すること考えられます。しかしこれも人数の余裕がなく、会議や年休の際は、そのクラスは自習、あるいは校長・教頭が合間で出ていく。複式学級がさらに増えるとそういう展開も難しいことになります。先生にとってとても負担が大きくなるのも複式学級の特徴です。少人数学級も良いということですが、複式学級は少人数学級の範疇を超えています。



今のお話の流れだと、複式学級のメリットは全く無いというお考えなんではないでしょうか。判断基準、判断材料としてお伺いしたかったところだったので、教育委員会としてどちらにいきたい、いきたくないということではなくて、フラットな意見、メリット・デメリットが伺えればなと。

複式学級のメリットというのは、ちょっと考えにくいと思っております。



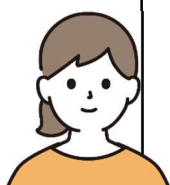
●学校再編検討委員会・議論の進め方について



学校再編といった施策については、学校のみならず、家庭や地域に重大な影響を与える可能性があるため、教育委員会・保護者・地域が一体となって、想いを一つにして進めていく必要があると考えています。

保護者や地域からは、議論の進め方への疑問や、反対・納得していないという意見を聞いており、少なくとも今日の時点では、3者が心を一つにし、信頼感を持って議論を進めている状況にはないという印象を持っています。説明や情報開示が不十分なまま、もし強引に学校再編の議論が進んで行くということがあれば反対です。

家庭・地域・学校が一体となってやっていくべきだということ、正にその通りだと思います。再編検討委員会は、地区・保護者の方々含めて、いろんな立場の方々に意見を頂き集約をしていきます。会議も多数決ではなく、議論の中で合意していく進め方をしています。何もしない中で一体感というのは出てきませんので、会議を重ねていく中で、一体感というのは出てくるものと思っています。



南房総中学校の再編検討委員を2年間務めていました。その情報が保護者の皆様に行き届いていなかったんだと、委員だった私の責任もあると感じながらお話を聞いていました。委員を務めた際の個人的な印象としては、再編検討委員会が始まってしまうと逆に、地域の声が届きにくい気がしています。少子化の問題と、統合についての2つの問題が混在しているので、地域としてどうしていきたいか意見を出し合う場や、地区説明会という形で深めていって、意見を出していただいた方が良いのかなという印象があります。

今のお話は恐らく、合同会議になってからの経験の印象になるかと思います。合同会議は、地区・保護者への説明会等で御意見を頂いて、統合するという結論が出た後の会議です。統合する・しないの議論については、それ以前の2年ほどかけて議論をしています。

白浜中学校を統合するか・しないかについても、保護者・地区での説明会をやっております。その中で、保護者の方からは特段反対はない、もうその方向で行くしかないだろうというようなことを受けて、再編検討委員会の方で結論を出しています。私どもの方から結論を押し付けたり、一方的にはやっておりませんので、御理解いただければと思います。





今の話だと、合同会議になる前に地区の再編会議ということですが、それが何回もあっても良いし、どんな意見が出てもお答えしていただけるというような認識でよろしいでしょうか。

再編検討委員会が立ち上がると、教育委員会は事務局になります。ですから会議や説明会の開催については、地区の方々、PTAの方々も含めた再編検討委員会が決め、主催でやっていきます。説明会の開催が再編検討委員会の意向であれば、事務局として設定をしていく。これは、今後もし白浜小学校の統合について会議を進めていくとしても、同じような考えです。



中学校の時の説明会では反対意見が無かったので一緒になったというお話でしたが、私が地区説明会に行った時は前にいらっしゃる方の圧が凄くて、意見を言える状態じゃなかったというのが正直な印象です。

こういう場だと、言える人と言えない人がはっきりしてくると思いますので、例えば手紙で、皆さんどう思いますかということ募るなどした方が、正直な意見や思っていることが伝わるのではないかなと思います。色んなことを思っている、ああ、言えなかったっていうのが無いように、私はそう思いました。

意見の吸い上げ方については、どういう形になるか分かりませんが丁寧に対応していきたいと思います。

今も、富浦地区の再編検討委員会で、保護者がどんな考えを持っているのか、富浦地区のPTAが集約する活動をしています。これまでに、例えば南三原小においても和田小においても、どの学校においても、再編するときにはそのような形で保護者の御意見をPTAの方々が集約して、それを会議の折に、保護者の意見として出しています。これからも、今頂いたことについては、会議を進めていく場合には十分考えて参りたいと思います。





お話し聞いてると、複式学級になるところというのが1つのデッドラインかと思うのですが、実際に考えているデッドラインはあるのかどうか、いつ頃までには決めなきゃ、というのがあるのか。それによって、話をしてく上でも、スピード感や、もっとゆっくり、じっくり話していくべきなのかが変わってくると思うので、そういったところをお伺いしたい。

デッドラインは設けておりません。ただ、1つの目安として、複式学級になるかならないかという年度までに、どちらかを選択するような期間を設けて皆さん方に議論をお願いするのが、私ども当然の責任かなとは考えております。
ただ、今後議論していったって、この後も何年も何年もかかるようなことも想定しております。



南房総中の再編の会議に積極的に出ていました。

やっぱりこれだけ人が集まると、一人一人の説明の受け取り方って全然違うと思うんです。なので、私がPTA会長をやっていた時も、会議で話し合ったことを保護者さんたちにおろすということを凄くしたかったが、学校側との連携がなかなか上手くできなかった。そこがうまくもっと出来れば、保護者さん達にこんな思いさせなかったのかなというのはあります。
だから、校長先生、教頭先生、PTA会長さん、教育委員会の方達で、教育長を筆頭に、今日の会議の事を保護者さんたちにおろすというのを都度やって欲しいというのが、前回の中学再編の時に思ったことです。皆に、保護者さん達に分かるようにして欲しいというのは、今日の会議を聞いていても思いました。

PTA会長として出ていただいてましたが、会員の人達の意見を集約して次の会議に出直したい、ということが何回もあり、苦労かけてるなという思いで見えていたんですが、それが今の発言になったかと思います。

私どもも十分踏まえて、意見の集約などについても、学校も協力して、会議の内容については教育委員会が文書で、こんなことを話し合いましたということを、その都度保護者に伝えていく努力もしていきたいと思います。

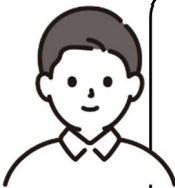


●学校再編検討委員会の立ち上げについて



PTA が再編委員を出していくことに了承したという話がありましたが、それは教育委員会から納得いく説明がされ、保護者が納得したことが前提であると思っています。まだ推薦書の提出はしておりませんので。

PTA 役員への説明会では、子どもの人数を見て、早急に地区全体の意見を聞いて議論を進めて欲しいという意見や、4人での運動会は心が痛むという発言もあり、再編検討委員会に委員を出して会議を進めていきたいと思いますということでお話を受けています。今の発言が説明会の際の結論ということになると、他の方々の意思を無視することになります。統合するかしないかは地区全体で協議を進めて欲しい、ということで受け止めております。



白浜地区に学校が1校も無くなってしまおうというデメリット、危機感を非常に感じており、どんな少人数であっても小学校1校は残していただきたいという希望はあります。複式学級が懸念されるのがまだ数年先ですね。そうすると、この1年の内に結論を出して例えば存続となった場合に、複式学級が懸念されている年代の児童や父兄が大変な思いをしてしまうことも、可能性としてはあります。

委員会が立ち上がると、統合に向けて話が進んでしまうという危険性も非常に感じてます。数年のうちに状況もまだ変わってくると思うので、もうちょっと長いスパンで、もう少し緩やかに、お付き合いいただけないかなと思っています。

決して急ぐつもりはありません。再編検討委員会立ち上げて、教育委員会の方から「何年までに結論出してください」とか、そういう考えは全くありません。

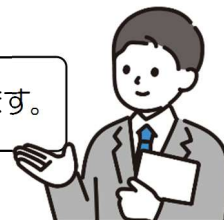
反面、今仰られたように、複式に該当する親御さんがどういう想いを持っているか、これも大事にしていかなきゃいけないと思っています。ですから、再編検討委員会を立ち上げて議論していくことは必要かなと。これについては是非ご理解を頂ければと思います。その中で、急ぐとか、そういうことは決してするつもりはありませんので、議論を尽くして、あるいは説明を尽くしてやっていきたいと思っています。





手続きとしてどうしても委員会を立ち上げ、組織しなきゃいけないという状況であれば、是非会議は公開、そこで手を挙げて意見を述べるつもりはございませんので、聞きたい方が入るようなオープンな会議を、今回実現していただきたいと思います。

傍聴は受け付けておりますので、いつでもどなたでもおいでいただければと思います。



地域の意見、保護者の意見を尊重していきたいと思ってますので、この場で、再編検討委員会を立ち上げることに同意したということではないということだけ申し上げたいと思います。

●その他のことについて



私の聞いた限りですが、多くの人が学校再編による影響を心配しています。南房総市で過去に行われた小学校の統合直後から5年間で、出生率が半減しているというデータもあります。過去の施策について全く検証すら行わず、新たな施策を進めていくということについては賛成できかねます。こうした影響についても情報の開示及び情報の共有をお願いします。

これについては、因果関係はないと思っています。日本全体が少子化になってきており、学校統合しなかったところでは子どもの数が減ってないかといったら、そんなことは無いわけです。これは市の責任もありますが、市民の方全てが、子どもたちが地元に戻ってくるような動きをしない限りは、少子化の波には抗えないと思っています。

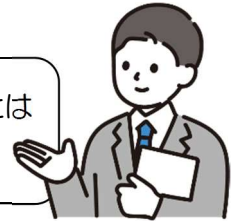
情報開示については、求めるものがどういうものかというのがあれば、いつでも提供するつもりであります。再編検討委員会を進めていった場合には、こういう資料が欲しいという事でしたら、全て出していく、あるいは出してきております。





今日の保護者の対象にというのは、1年生以上の保護者を対象ということでしょうか。

東部保育園や、白浜こどもの森、幼稚園にも、今日の会議や明後日の会議があることはお配りしています。



どのくらい周知されているのか分かりませんが、見る限り小学生の保護者が多いのかなぁと思ひまして。実際、0歳から6歳までの子が影響受けると思うので、そういった方々にもっと徹底的に周知されたら良いのかなと思ひました。

有難うございます。例えば今日、皆さんにお配りしています資料等については、0歳から就学前の5歳の子ども達の親御さんにも届くような工夫はしたいと思ひます。



教育委員会に聞くことではないとは思ひんですが、南房総市として、子どもを増やす施策はどういったことをされているのか、どういう目標値の中で行っているのか、進捗はどうなのか。これを見ると、今生まれているだけの数字で判断されているんですが、移住などでこれから増えることは考えられないのか。目標値はこれだけだけど、それでもやっぱり足りないから統合するべきなのか、お伺ひできればと思ひます。

南房総市の人口規模ですが、ピークの時の4分の3、あるいは3分の2の人口を目指しております。語弊があるといけないんですが、子ども達を増やしていくには何が大事かと言ったら、20歳から39歳くらいまでの女性を、南房総市に住んでいて、子ども達を生んでいける可能性のある世代の女性を多くしていかなければ、子ども達は増えないだろうということで、そういうような施策はとっております。ホームページに確か載っておりますが、南房総市の給食が良いから移住された親子もいます。あるいは自然豊かな中で子ども達を育てたいということも、あるいはきめ細かく保育・教育・子育てをやっているということで、こちらに移住された方もいらっしゃいます。教育委員会とすると、そういう環境は色々考えて手を打っているところです。人数だとか到達目標、そういうものは申し上げられないんですが、今のお話でお許しいただければと思ひます。



◇ 質疑・応答 <8月1日（地区住民対象）参加者：32名> ◇

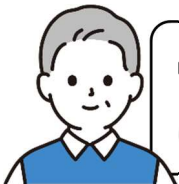
●学校の統合・規模について



統合をすることになった場合、千倉の小学校の方に行く形になると、例えば根本地区からではかなりバス通学に時間がかかる。低学年の子にとってはかなり大変なのかなと思うと、嶺南で統合した時、最大どのくらいバス通学に時間がかかっているのかもちょっと心配で。今と同じ8時からの時間だとすると、かなり大変かなというイメージがあります。そういう物理的なところ、時間など分かる範囲で教えていただければと思います。

岩井小学校と平群小学校が統合した時の方が、距離的には和田・丸山よりもあったかと思っています。

基本的には、乗っている時間は30分程度、あるいは乗っている距離は15km程度としています。いろんな工夫をしており、大きなバスでいろんなコースを回るということはしておりません。乗り降りに時間がかかりますので。大型を1台走らせるなら、マイクロ2台走らせる。それで、例えば15kmの路線の中で、一定程度の範囲で子ども達の乗り降りを終えて、後はそのまま学校までノンストップで行くという形で、時間をできる限り少なくしています。



中学の場合のように子どもが大きければ良いけど、小学生で親離れがまだ出来ない子に、千倉はちょっと。七浦の地区を、白浜地区の学校で再編という案はどうですか。

今この段階でそれはちょっと、協議する内容ではないのかなと。相手のあることです。白浜地区がその意見で一つになって、それから合同会議で千倉の方と話し合うことの内容かなと思います。



千倉の方でもスクールバスの子どもが寝てるそうです。朝晩ね。小学校の場合は子どもが小さいので。私の考えとしては、小学校の合併は、ほんとに反対ですけどね。孫が中学に行ったんですが、朝7時から出て行くのはほんとに厳しい。小学校の生徒で7時から7時半くらいだと、結構厳しいんじゃないかなと。だから、七浦地区に学校があれば、そこがちょうど中間で良いんですけどね。千倉小学校じゃちょっと遠いです。

学校の位置についてはお答えできませんが、バスを走らせる時間等については、通学支援の専門部会で保護者の方々に出ていただいて、時間やバス停を決めていきます。どうしても朝早くて、この時間帯に出発しないといけないとしたら、これは、学校の始業時刻を少し遅くするなどして、バスの出発する時間はずらしていけると思います。



教育ばかりじゃないですが、白浜自体が端だから、何もかも無くすようなことばかり考えてるから、市の方がね。白浜の住民としては、そういう面が凄く疑問があります。和田の方も同じで、端の方で便が悪いから何もかも無くして、中央に持って行こうという案が見受けられます。ちょっとおかしいんじゃないかなと思って聞いたんですけど

統合という結論だけ持っているわけではなくて、一つの方向としては、統合ということも当然考えなくてはいいだろう、もう一つは、統合しないで、このまま複式学級もある、それでも地域としてその学校を支えていこうっていう、そういう結論もある。どちらかの結論を得るにしても、地区再編検討委員会を立ち上げて、そこで地区の方々の意見を聞きながら、一つの結論、方向性を出していただきたいというのが、今の私どもの立場です。



ただ、この前の30日のとき、PTAが結論がまだいくらも出ないらしいと聞いたんですけど。PTAが結論が出ないうちは、住民に対しても、区長会に対しても、前に進まないんじゃないかなあと私は思うんですけどね。

仰る通りだと思います。ただ、この段階で保護者の意見を伺うとか、そういうのではなくて、どちらの結論を得ても良いように、再編検討委員会を立ち上げて、再編検討委員会として保護者の方々の意見を吸い上げていくとか、そういうような形をとっていただくのがこれまでの進め方でしたし、やり方とすればそれが一番公正というか、中立的な進め方かなと思っています。



検討委員会は、立ち上げることは良いことですけどね。そこから結論出るものだから。教育委員会と違いますが、合併債を他所の方の地区が使っちゃって、白浜のためには何も使ってないから。ちょっと質問したんですけどね。以上です。分かりました。



—昨日質問した件なんですが、災害時、緊急時に迎えに行かなければならないけど遠くてなかなか行けない場合、安全が確認されるまで学校で預かるというお話がありました。ただ、親の気持ちとしては、例えば携帯の繋がらない地域を通して通学するだとか、そういうことも考えられるのではないかなと思うと、怖い部分もあります。

3. 11の時に多くの子ども達、家に帰った子ども達が亡くなっています。大川小学校を除いて、学校で預かっていた子どもは殆ど亡くなっていません。そういう教訓を基に、3つの安全が確保されるまでは園・学校で預かることを基本としています。自分の家が安全であること。家と学校の経路が安全であること。家に引き取ってきた後、大人が子どもをずっと面倒みられる。その3つの安全が確認された時にはお迎えに来てください。この3つのうち、1つでも欠けた場合については学校でお預かりします。食べ物、水についても学校の方で備えてあります。

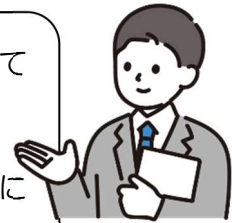
携帯の話は、これについても年2回、通学時に避難訓練をしています。バスの運転手、添乗員の方々とも連絡を取り合って、運行中に警報が出た場合、あるいは災害が起きた場合にどうするかは、何度も訓練して対応を考えておりますので、これについても、心配ないですということとは言えませんが、対応については十分やっております。



今のは、通学途中のバスの災害対応だと思うんですね。統合した場合、例えば千倉小学校に行く時にどういう経路を通っていくのか。山の中を通っていくのか、海の方を通っていくのか。それによっても通学の時間とか、電波の状態というのもあると思います。災害の時も学校でお預かりしますということですけど、白浜小学校と、統合した場合の先の学校で預かってもらう場合とでは、白浜小学校だったらスムーズに迎えに行けるものが、遠くなったことで何日も迎えに行けなかったとか、そういうことがあると怖いなと思います。そういった面でもいろいろ、小さい子どもを持つ親としては考えていただきたいなと思います。

そういう御心配は当然のことだと思っています。そういうものについて、十分対応しているつもりであります。

何年か前の大雨の時に、長柄町だったと思いますが、おじいさんが幼稚園に孫を迎えに行って、子どもを引き取る前に車ごと流されて亡くなったというのがあります。あるいは東金の方の中学校では、大雨が止んでまだ水が引いていない状況で子どもを返して、胸まで浸かりながら自転車を転がしながら帰るとか、そういうようなものが3. 11の後でもあります。私も、そういうことは無いようにということで、先程申し上げたことを徹底しています。家で、手元に子どもが居ないのは心配だと思いますが、ただ、本当にさっきの3つのことを確認していただいたうえで来ていただくまで、職員、教員の方が子どもの相手をして、不安にならないようにしてお預かりします。いろんな職業の方がいらっしゃいますので、これは私どもの方で十分対応していくつもりで今まではやっていますし、これからもやっていくつもりです。



これも一昨日お話したんですけれども、4～5人という人数では駄目なんじゃないかということです。少人数だからできることというのはたくさんあると思いますし、白浜の地区から学校をなくすということが、私はとても怖いと思います。子ども達の声がなくなるということは、地域の住民にとっても死活問題ではないかなと思います。

あと運動会の事で、今の白浜幼稚園も4人なんです。少人数だからできることはたくさんあって、大人数の中で埋もれてしまったら出来ないことを沢山経験してると思うんです。大人数が正解ということでは、私は無いと思っています。もし、少人数の運動会が可哀そうと思う方がいるのであれば、地域の方を皆巻き込んでしまえば良いのではないかと私は思います。子どもだけではなく、例えば卒業生、中学生、高校生、大人の方、小学生のおじいちゃん、おばあちゃん、皆さんで盛り上げる。それが地域を盛り上げるってことで、大切な事なのではないかと思っています。



少人数だからできることというお話がありました。逆に言いますと、少人数だから出来ないこともあるわけです。この辺は再編検討委員会を立ち上げて、地区の方々と、じゃあ運動会はこんな形で考えようとか、そういったことを議論していただいて、統合しないという結論になれば、それはそれで私ども尊重していく考えです。統合という結論で再編検討委員会立ち上げるのではないということは、御理解いただければと思います。



●複式学級について



複式学級で大々的にはいけないというのは分かるんですが、教育委員会で考える複式学級のデメリットはどういうふうに考えていますか。

学校は、教員側にとっても、子どもにとってということがあるかと思います。白浜小学校が11年度に複式学級になりますと、教員は学級数の5人プラス1人が配置されまして、6人ということになります。国の配置では5人しか来ないけど、プラスされている1人を使って6学級にして、それぞれ担任を付ける状況になります。ただこれですと、余裕のない状況になります。会議や研修会、出張した場合については、そのクラスは校長・教頭がそのクラスに行かない限りは、自習ということになります。

令和11年度は2年生と3年生、合わせて14人が1つの教室に入りまして、そこで1人の教員から国語の授業を半分、先に2年生の説明をして課題を出して、課題を2年生がやっている間に3年生の方を教える。そういうことの繰り返しになってくると思います。なので、子ども達にとっては非常に厳しいものがあるのかなという感じは持っています。

複式学級が2つ以上になってきますと、教員も足らなくなり、どうしても1つの教室でやっていくことになります。これはやはり、子ども達にとっても教員にとっても、非常に負担の大きいものになってくると思います。



ある地区で、逆に成績が上がった結果が出てるということを聞いたもんだから今の質問になったんですがね。マンツーマンみたいな勉強の仕方になって、学力上がってるというようなことを聞いたもんで、今の質問になりました。

やはり子どもの時期は、多くの子ども達、多様な子ども達と接する中で、喧嘩をしたり遊んだり勉強したり、そういう中で色々な人との付き合い方とか、あるいは人間的に豊かになっていく、そういうものではないかと思っていますので、限られた4人、5人の中で6年間送らせるということは、子どもにとっては決して良いことではないと、そんな風に私は考えています。





うちの子は4歳なので、令和11年度になると小学校3年生と2年生の複式学級にあてはまってくると思うんですが、単独の3年生と、複式学級でやってきた3年生とで、勉強の内容だったりとか、授業の時間数が増えるとか、例えば夏休みが授業の方に回されるとか、そういう差はあるのか教えていただきたいなと思います。

物理的な違いはありません。授業日数ですね。夏休みが短くなるとか、そういったことはありません。他の学校と同じ日数でやっていきます。授業時間数も変わりません。例えば、3年生の国語の時間が週5時間でしたら、複式学級でも5時間です。で、その5時間の中で、2つの学年の勉強を進めていくということになります。



1人の先生が、2年生と3年生を教えていく？

基本的にはそういう形です。ただ、学級数+1人配置されていますので、多くの学校ではその教員を学級担任にして、クラスを見ることになります。

ただ、1人プラスするというのは、学校の中でもいろんな業務があるからです。その業務を配置された6人が分担しながら、学級担任としてやっていくことになるかと思います。

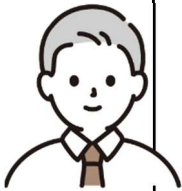
ですから、教員にとってはちょっと大変かなと。結果的には子ども達の方にも何か、影響が出てくることも考えられるかと思います。

いずれにしても、与えられた環境の中で学校は最大限努力していくと思います。



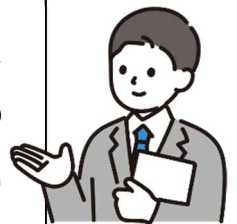
複式学級でクラス+教員が1人配置されるという話でしたが、これは、全国的にそうだと思うんですね。大都会を除いて。そしたら現場とすれば、教員をもっと欲しいという声を上げて要望するとか。先生の成り手がいないという話だからしょうがないけど、でもそういう話だってあって然るべきだし、総合的に考えていくというのは、1つ考えとしてはありじゃないですかね。

仰る通りだと思います。ただ、教員の定数配置の法律に則って決まっていますので、私どもがお願いしても出てこないものになってきます。大変残念ですが、子どもの数で学級数が決まって、その学級の数によって教員が配置されるのは法律で決まっています、全国一緒ですので、大変申し訳ない状況ですけど、先ほど説明したような形になっていく、そんな風に考えてます。



本当はそれを進めない限り、良い結果は生まれないはずなんですよ。だって、全国的にそうなんですよ、大都会を除いて。そしたら地方が皆で、変えろという声を上げる。それが普通じゃないんですか。それを变えるのだって私たちの力だと思うんですよ。言われるがまま、はい分かりましたじゃ、良い結果は生まれない様な気がするんですけど。

教員の配置については、各学校の校長から要望を受けております。複式の場合も含め、教員が一人でも多い方が学校にとっては良いわけです。要望を受け、県には要望を常に出していて、叶う場合が極稀にありますけど、通常はやっぱり、法律で決まった通りの数しか出てこないというのが現状であります。常に、一人でも多くということはお願いしているので、御理解いただければと思います。

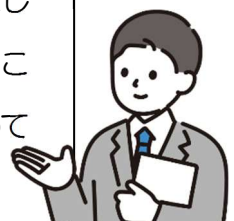


●学校再編検討委員会の立ち上げについて



いろいろと御意見等ありましたが、やっぱり今回のテーマというのは、子どもを中心に考える、そこからスタートすると思うんですよ。子どもに対して一番良い環境を作ってあげるというのも、我々大人の大切な役目だと思います。ですから、早急に検討委員会を立ち上げていただいて、その中で十分に検討していただいて、方向性を決めていただきたいと。このような件は子どもを中心に。そこから考えをスタートすると良いと思います。

有難うございます。仰る通りで、今までの学校再編でも、財政上の問題で学校統合はしてきておりません。子ども達の教育環境として一番良いものはどういうものかということで、再検討委員会を立ち上げて、また地区の方々の御意見伺う中で、方向性を決めていきたいと思っています。

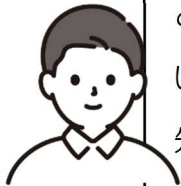


●学校再編検討委員会の進め方について



今後の向かう先についての検討は、まず検討委員会からだということで納得をしております。ただ、2日前の保護者向けの説明会でも、この複式学級を懸念される年代の父兄の方が見られなかったもので、どういう選択が地域の子ども達にとって一番良いのかというのを考えるうえで、どういう結果になってもやはり一番大変な思いをするのが、その複式学級が懸念される年代の児童や親御さんだと思いますので、是非、検討委員会がそちらの意見を重々確認しながら慎重に進めていくという形で議論を進めていただきたいと思います。

複式学級ということ、私の方でちょっと強調し過ぎたかなと思うんですけど、複式学級に該当する子ども達が大変というよりも、複式学級が出来るほど人数が少なくなってきた学校というのは、いろいろ制限がかかってくるというようなことで御理解いただきたいし、私どももまた、御説明申していきたいと思っております。



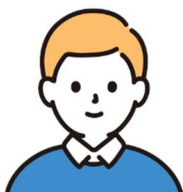
前回はやっぱり同じような流れのお話になって、複式学級を強調するお話になってしまったというお話もいただきましたけど、保護者の方も感情的になって、統合ありきの説明ではないのかというような感情になってしまって、お話が前に進まない状態になってしまった。先程のお話になりますが、教員の数も含めて、やはりコストを教育の場から削っていくのは大反対ですし、複式学級でも存続となった場合には、最大限のフォローをするというお話を前回は今回もいただいておりますので、教員の数も含めて出来る限りの御支援を頂きたいなと思います。

教員につきましては、教員の給与の3分の1は国から出ています。残り3分の2を千葉県が出しております。市町村では出しておりませんので、やはり配置とか数については非常に厳しいものがあります。

ただ、南房総市については、教員の配置についてはなかなか自前ではできませんが、それ以外のものについては、一人当たりの教育費というのは県下でも一番かけてる方だということで自負しております。これは、校舎の建設費とかそういうのは抜いて、通常の経費の中です。そういうことは是非御理解いただきたいと思いますし、教員の配置については、なんともし難いということについても、御理解いただければと思います。

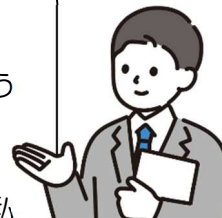


●その他のことについて



7月30日に保護者対象の説明会を開かれたということですが、その時の保護者からは、どのような御意見が上がったのかお伺いしたいなと思いました。

27名お集まりいただきました。いろんな御意見いただきました。私の印象としては、再編検討委員会を立ち上げることについての特段強い反対は無かったというふうに理解しております。その先の、学校の在り方、統合する・しないに対する不安とか、懸念とか、そういったものについて御質問など受けたかと思います。あくまで私の方の印象で申し上げますので、概要的なものについては担当が会議録を精査してまとめているので、9月に入りましたら子ども達を通して保護者の方々へお届けしたいと思っております。地区の方々には回覧で回したいと思っております。ですので今日は、私が申し上げた印象でお許しいただければと思います。



一昨日も参加しました。皆さん勘違いされるといけないなと思って、言いたいんですけども、先程教育長さんの方から、一昨日参加したPTAが、地区学校再編検討委員会の立ち上げをしても良いのではないかというお話されたと思うんですが、決して積極的に立ち上げをした方が良いという話し合いではなかったんじゃないかなと思います。話の中では、もっとゆっくり、これに関しては慎重に進めて欲しいという意見があったと思うので、それは、皆さんに周知したいと思います。

統合しないことと、すること、どちらもいろんな一長一短あるかと思います。それについては白浜地区の皆さんで議論していただきたい、協議して結論出していきたい。急ぐわけではありませんけど、令和6年度は大半終わりがけており、そうしますと、11年度の複式学級が生ずるであろう子ども達が小学校に入るまでの、7年度～10年度の少なくとも4年間かけて結論を出していくべきことかなと思っています。この4年ではまだ早すぎるという事でしたら、私どもとすると11年度の複式学級は受け入れていなくちゃいけないということになります。議論も途中のまま、受け入れることになる。結論を出さないまま年を重ねていくということになりますので、これは避けたいと思っています。





住民の数だけ、保護者の数だけいろいろな御意見が恐らくあると思います。

仮に反対する方が多く、白浜は統合しませんという形になった場合、必然と複式学級になっていく流れだと思うんですが、保護者、お子さんの中には「絶対複式学級が嫌だ」という方もゼロじゃないと思うんです。仮に白浜が複式学級になってしまった場合、統合に賛成していた方は、例えば千倉に行っても良いとか、そういう選択肢はあるんですか。

現実問題としてそういうことが生ずるのが一番、私どもとすると困るなど。従いまして、再編検討委員会を立ち上げて、保護者の方々、あるいは地域の方々の意見を吸い上げて、とことん話し合って合意ができるまで。皆いろんな考えがあっても納得するところで結論出していただいておりますので、統合する・しないどちらの結論になっても、白浜地区で一つにまとまっているような話し合いは、進めていきたいと思っています。

複式ということですが、複式にならなくても1学級の人数極めて少ないわけです。こういった場合に、保護者の判断として他の学校を選ぶというのは当然起こりうることだと思います。これまでも例えば幼稚園で、11人中男の子が10人、女の子が1人という場合があります。1人の女の子が、本来指定している幼稚園ではなく違う方を選んでいった。これは保護者の方の判断ですので、尊重しなくちゃいけないと思っております。

保護者の方から、本来行くべき学校と違う学校に行きたいという希望が出てきた場合については、市内でありましたら、学校の選択は基本的には認めております。



白浜には白浜音頭というのがあって、白浜小学校の子たちは三味線で白浜音頭を弾いたり、房州の民謡を弾いたりして、10年くらい前の日本民謡協会の全国大会に行った時には「これだけできるのは凄いね」ってお褒めの言葉を頂いたのを、今でも忘れません。

今後、どんどん子ども達が少なくなって合併していくと、自分たちの地域のことを忘れてしまうところかもしれないと出てきたら凄く寂しいなど。小さいうちから伝統に触れていくのは、恐らく教育上も凄く必要なことだと思いますし、白浜にはそういう大切なものがあるというところだけは、今後も、学校が再編していくうえでも、大事にしていっていただきたいというのが強い想いです。

お話の内容は仰る通りでございます。

学校の方も、そのあたりも考えていると思います。と言いますのは、例えば嶺南中学校、あるいは嶺南小学校で言いますと、和田漁港の方の勉強に行ったり、あるいは、文化財で指定している莫越山神社の猿田彦の舞の見学に行くとか、あるいは農業体験とか、そういったものを、スクールバスを利用して、学区が広がった分新しいところで、子ども達は体験的に学んでいますので、今仰ったことは十分踏まえて、教育委員会としても学校には伝えて、教育できるようにしたいと思います。

